



帰国生の学校選び A to Z

●第38回●

一時帰国中の学校選びの チェックポイント（その2）

前回に引き続き、一時帰国中の学校選びのチェックポイントをご説明します。

前は学校の規模(生徒数)や男女比を確認することに触れましたが、帰国生の数や全校生徒に占める比率なども確認することが大切です。とくに帰国生の比率が高い学校は独特の雰囲気があるので、それが自分に合っているのかを確認しましょう。

また、帰国生のサポートについて確認することも大切です。たとえば、帰国生のための「英語の取り出し授業」や国語や社会などの授業の「補習」、生活面でのケアを行なう「カウンセリング」などは、帰国生の多い学校では実施しているケースが目立ちますが、帰国生の少ない学校でもきめ細かいサポートをしていることもあります。各々の学校が行なっている具体的なサポートの内容を確認しましょう。

部活動の種類や活動実績なども、実際に活動の様子を見学することが大切です。また、誰でも入部できるのか、放課後や休日の活動時間なども確認しておきましょう。

学校行事の数や内容も学校によってさまざまですが、学校生活の魅力の一つです。学校訪問や説明会でくわしく聞きましょう。

施設・設備も学校生活を送るためには重要な要素の一つです。最新の立派な施設や設備はなくても、清掃が行き届いていて清潔な学校ならば快適な生活が送れることでしょ。

最後になりますが、入学資格や入学試験について確認することはとても大切です。とくに編入学についての情報は詳細が公表されていないことも多く、個々の学校に問い合わせる必要があります。編入時期(学年や月が定められているのか、いつでも受け入れ可能なのか)や入学試験の内容(科目、出題範囲、問題のレベル)も、担当の先生にしっかり確認しましょう。中高一貫校では中3でも高校1年生の授業を行なっていることもあり、注意が必要です。

このように帰国後の学校選びでは、自分で見て、聞いて、肌で感じて確かめて、入学してよかったと思える学校を見つけることが大切です。

執筆者：丹羽 筆人（名古屋国際中学校・高等学校 アドミッションオフィサー北米地域担当）

河合塾での指導経験を経て米国ではCA・NY・NJ州の補習校・学習塾にて指導。現在はデトロイトりんご会補習授業校講師。代表を務める「米日教育交流協議会」では、日本語・日本文化体験学習「サマーキャンプ in ぎふ」を実施。他に、河合塾北米事務所アドバイザー、文京学院大学女子中学校高等学校 北米事務所アドバイザー。

お問い合わせ先：E-mail nihs@ujeec.org

Phone & Fax 855-669-9300(名古屋国際)

